

REPRESENTANTES DE HOSPITAIS NIKKEI E DA UNIVERSIDADE KYUSHU APRESENTARAM  
INOVAÇÕES TECNOLÓGICAS EM EVENTO PROMOVIDO PELO HOSPITAL SANTA CRUZ

● 3月6日、サンタクルス病院が主催する会議において、九州大学と日系病院の代表者らが医療技術について発表。

TEMDEC—アジア遠隔医療開発センター（九州大学）の医師や専門家達は、「日本—ブラジル医療協力会議」の中、日系病院の技術革新プロジェクトについての現状について見識を深めるとともに、各国の医療機関との間に構築されたネットワーク「Telemedicine（遠隔医療技術）」の取り組みを紹介しました。ブラジルの日系病院とTEMDEC（九州大学アジア遠隔医療開発センター）との情報共有及び連携は、本会議の目的の1つでした。

本会議には、医療分野の技術進歩に焦点を当てながら、施設間の共同プロジェクト開発の重要性を確認することを目的に、日伯友好病院、パラナ病院、アマゾン病院、サンパウロ大学付属病院、サンタクルス病院の日系病院及び、九州大学の医師や代表者達が参加しました。

石川レナト・サンタクルス病院理事長は、「本会議は日系病院と九州大学の知的交流を促進する画期的な出来事であるとともに、ブラジルに日本の大学を紹介し、医療関連の技術進歩の共有を促進できたことを誇りに思います。ブラジルの一般市民と地域社会に対する卓越した医療サービスの強化につながるでしょう。」と述べました。

サンタクルス病院の脳神経外科医で、本会議の運営メンバーでもある西国幸四郎医師は、「本会議を通じ、現行の病院機関によって開発された先進技術をより深く理解するという目的を達成することができました。九州大学やTEMDECが開発した遠隔医療分野の先端技術プロジェクトとの経験交流促進に貢献したと考えています。」と語りました。

アマゾン病院のエドソン・ユズル・ヤソジマ副会長は、パラ州にあるベレン市の施設、及び川沿いの地域社会における社会活動のケアと治療の歴史を紹介し、「新しい技術の採用は、サービスをさらに拡大するための重要な要素です。」と補足しました。

サンパウロ大学病院の代表者で、サンタクルス病院の内視鏡検査部門責任者でもあるルイス・マスオ・マルタ医師は、現行の施設が新技術のニーズや必要性を高めることの重要性を強調しました。医療サービスの拡大と合理化に寄与しつつ、既存の設備に併合できるという理由からです。

「今回の会議を通じ、病院の技術的現状を知ることができ、またTelemedicine（遠隔医療技術）プロジェクトを発表する絶好の機会とすることができました。次のステップは、これらの日系病院のニーズを理解し、我々がどのように情報交換や新技術導入に関われるかを把握することです」と、TEMDECセンター長であり、九州大学病院国際医療部長の清水周次教授は述べました。会議では、内視鏡検査、手術、看護、肝臓

病、一般医療などの分野において、世界 60 カ国以上で取り組みが行われている TEMDEC が開発する遠隔医療プロジェクトを発表しました。

また、本会議には TEMDEC より、森山智彦 TEMDEC 副センター長（同大准教授）、富松俊太 TEMDEC テクニカルスタッフ、吉田良子 TEMDEC 国際コーディネーターも参加されました。

TEMDEC の主な活動は以下の通りです。

【遠隔医療教育】プログラムの作成、システムの準備・調整

【遠隔診療】遠隔地同士での診療相談や患者搬送の事前調整

【新技術の研究開発・導入】より多くの施設へ、より良い画像伝送を実現

【コンテンツの開発】常に新しい領域への応用を検討

【アジア遠隔医療活動の事務局】先端アジア太平洋ネットワーク (APAN) 医療グループの中心的存在

【国際医療交流拠点】海外研究者の招聘・受け入れ

8º Encontro do Projeto de Telerradiologia do Hospital Santa Cruz apresentou casos complexos e teve a participação de médicos da Universidade Kyushu

●九州大学医師等も参加する中、第 8 回遠隔放射線診断プロジェクト会議（於：サンタクルス病院）で複雑症例を紹介。

3 月 6 日、第 8 回遠隔放射線診断プロジェクト会議が、サンタクルス病院、サンパウロ大学病院およびベレン大学病院との連携により、サンタクルス病院講堂で開催されました。

毎月開催される本会議は、JICA 及びリアルタイム接続用の画像診断ソリューション「Synapse PACS」の技術を提供する富士フィルムによって支援されています。本会議では、上記 3 医療機関の医師等がオンラインカンファレンスを通じ、難易度の高い胸部及び腹部の診断 6 例を発表しました。

また同会議には、TEMDEC - 九州大学アジア遠隔医療開発センター、日系医療機関医師、JICA 及び富士フィルムから教授、医師や専門家等が参加しました。遠隔放射線診断プロジェクトの責任者であるサンタクルス病院の技術部長で心臓専門医の山野ジュリオ医師は、「本プロジェクト及び現行の技術進歩のメリットを TEMDEC の皆さんと日系医療機関に発表するための重要な機会であった」と語りました。

TEMDEC 関係者は、サンタクルス病院の医療診療における最先端技術の使用の拡大への連携を確認し、遠隔医療技術関連施設との取組みに着手しました。

「九州大学と TEMDEC は、著名なブラジルの病院間の遠隔放射線診断の生中継に参加できることを大変嬉しく思います。今後 TEMDEC も情報共有を行うことでブラジルの医療関連の技術革新の発展に寄与することができればと考えています」と TEMDEC センター一長であり、九州大学病院国際医療部長の清水周次教授は述べました。

(了)